

授業科目

医療機関実習

担当教員名 竹井 豊、神藏 貴久、山内 一、大松 健太郎、安達 哲浩	対象学年	3	対象学科	救急
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	4	時間数	180

ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

授業の概要

本実習では、これまで学習した医学的知識および修得した救急処置技術をふまえ、傷病者がどのような流れで医療機関に搬送されてくるのかを理解する。また情報や搬送された傷病者の所見から、病状、病態を考察し、観察、判断能力を高める。見学だけでなく可能な限り救急処置や特定行為に関連する事項においても体験する。医療現場の実際を体験することにより、救急救命士の責任、使命、自覚を養う。

授業の目的

本実習では、これまで学習した医学的知識および修得した救急処置技術をふまえ、傷病者がどのような流れで医療機関に搬送されてくるのかを理解する。また情報や搬送された傷病者の所見から、病状、病態を考察し、観察、判断能力を高める。見学だけでなく可能な限り救急処置や特定行為に関連する事項においても体験する。医療現場の実際を体験することにより、救急救命士の責任、使命、自覚を養う。

学習目標

1. これまでに学んだ内容と実際を結びつけ、救急救命士の役割を理解する。
2. 救急現場で学んだ内容を振り返り、活動における思考をまとめる。

授業計画

授業計画・学習の主題	担当教員
実習における学び方等については「救急救命臨床思考演習」を参照とする。	竹井 豊、神藏 貴久、山内 一、大松 健太郎、安達 哲浩 他
実習期間は開講期間中の4週間（実習受入れ機関により変動あり）	竹井 豊、神藏 貴久、山内 一、大松 健太郎、安達 哲浩 他
実習内容は、医療機関における実習となる。	竹井 豊、神藏 貴久、山内 一、大松 健太郎、安達 哲浩 他
詳細な指導計画については、実習受入れ機関の計画による。	竹井 豊、神藏 貴久、山内 一、大松 健太郎、安達 哲浩 他
実習指導は実習受入れ機関の実習指導者が行い、担当教員による巡回指導もあわせて行なう。	竹井 豊、神藏 貴久、山内 一、大松 健太郎、安達 哲浩 他
実習した症例から救急現場における救急救命士としての思考をレポートとしてまとめる（1実習日につき最低1症例）。	竹井 豊、神藏 貴久、山内 一、大松 健太郎、安達 哲浩 他
最終的に症例発表を行なう。	竹井 豊、神藏 貴久、山内 一、大松 健太郎、安達 哲浩 他

使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書	改訂第9版 救急救命士標準テキスト 上巻	救急救命士標準テキスト編集委員会	へるす出版	2015年	10,584円	1年次購入済
	改訂第9版 救急救命士標準テキスト 下巻	救急救命士標準テキスト編集委員会	へるす出版	2015年	10,584円	1年次購入済
参考書						
その他の資料						

評価方法

1. 科目試験はレポート形式により、下記をもって合格とする。
 - (1) 期限内に必要な数（別途提示）を提出すること。
 - (2) 症例検討（別途提示）にて発表すること。
2. 科目試験が不合格であった場合は、再実習を行い、1.に挙げた要項をもって再判定する。

履修上の留意点

本科目を履修するには、3年次前期までに履修する専門基礎科目群及び専門専攻科目群の必修科目のうち、「地域災害・防災論I」,「地域災害・防災論II」,「救急統計学」を除くすべての科目の単位を取得していることが条件となる。

以下に挙げる場合は、科目試験の判定を放棄したものとみなす。

1. 病気、怪我などの身体的理由（要診断書）または適正な理由（要担当教員許可）が無く欠席または遅刻をした場合。
2. 授業態度不良と判断された場合。

注：実習受入れ機関の状況により、本実習の内容の一部を学内実習に変更することがある。

オフィスアワー・連絡先

授業開始時に担当教員より連絡する。